

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2011年 8月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpine Federation

2011年8月10日発行 通巻220号（毎月1回発行）

**組織強化・個人会員制度の
討議に参加しよう！！**

----- 8月号目次 -----

8月号目次	2
「私の一名山」市川山の会・岡田 庄一郎	3
登山時報 「ひと」の紹介「うざわ喜久雄」さん	5
新特別基金担当者会議報告・鶴田副理事長	6
支援活動報告 千葉県連支援活動実績報告・吉田理事長	7
〃	8
〃	11
〃	13
支援Tシャツの案内 ・かがりび山の会 石井さんイラスト	14
討議資料 各会での討議のお願い	15
〃 「個人会員制度」導入と組織強化の具体的提案・2次案	16
〃 「個人会員の山行管理」について	22
記念トレッキング案内	23
県連たより	25
カレンダー	26

表紙 写真コメント

中国四川省姑娘山群大姑娘山 (5,030m)

左から四 (6,255m) 三 (5,355m) 二 (5,276m) 大姑娘山 (5,030m)

撮影日 : 2010年7月20日

撮影場所 : 中国四川省姑娘山群大姑娘山山麓

私の 一 名 山

市川山の会 岡田庄一郎

2010年7月17日～23日中国四川省四姑娘山群大姑娘山（5030m）をアルペンツアーサービス(株)のツアー登山で登頂。

7月17日(土) a m 8 : 55 成田発上海経由で成都 p m 6 : 16 着乗り換えのため結構時間がかかった。

7月18日(日)パンダ見学の予定が2009年四川地震の影響で中止、道路も復旧がなされていないため、遠廻りする。a m 3 : 00 早朝バスにて日隆（リーロン）へ向かう。p m 3 : 00 日隆着ホテルに入る。昨日から乗り物で移動しているため、ようやく落ち着いた気分になる。ホテルはボイラーが地震で壊れたままで、シャワーが水のままだ。それも氷河の溶けた水のため相当冷たい。とてもゆっくり浴びてられない、早々に夕食のため食堂に行く。四川料理は辛いと聞いていたが、本当に辛い、苦辛い。

翌19(月)は高度順応のため、里山を散策する。リーロンの町の高度は3,150mのため高木はほとんど見られない。草原の山を所かまわず歩く。

20日(火)馬に荷物を積んで、四姑娘山の山麓にある老牛子園（ラオニユエンツアー）の大姑娘山ベースキャンプ標高3,600mへ向かう。馬やヤクが通るため登山道はメチャメチャに荒れていた。いずれ、この自然をまもるために、馬やヤクでの荷物運びは禁止となるだろう。途中四、三、二、大姑娘山群が並んでその雄姿を見せてくれた（表紙写真）。

キャンプに着きテントに荷物を置き、午後からは自由時間だ。このあたりは見渡す限り花畑で、馬やヤクが放牧されていて、草と共に花を食んでいる。

土地の人は「糞が種を運ぶ」と、言ってるがこれ以上の観光化が進み、馬、ヤクの放牧密度が上がれば禁止にせざるを得ないだろう。



21日(水)高度順応日でBCから花畑の中を4,000m付近までを往復する。トレッキングのコースがあいまいでどこを歩いても良い。花を踏みながらガイドの後ろを歩く後ろめたさは、何と云って良いのか？

いずれ日本や、欧米のようにコースを造り、コース外に出てはならないことになるだろう。

22日(木)BCからカールの中にある第一キャンプ4,300mまで行動する。途中ブルーポーピーを発見——写真—— 「青いケシ」という創造した花と違って、葉が厚くトゲトゲしい植物だ。



23日(金)大姑娘山登頂日、朝から霧がかかって視界が悪い、頂上はまったく見えない。

昨日まで天候は良く遠くの稜線も見えていたのに残念である。

5,030mの頂上を目指してもくもく歩く、標高が高くなるたびに、霧が濃くなり足が上がりなくなる。

ガイドは「時間は十分あるのでゆっくりと登れ」と励ましている。頂上は岩があり、大姑娘山と書いてある。ここから鋭く尖った四姑娘山やミニヤコンガが遠くに見られるそうであるが、全く見えない。酸素不足と寒さ、強風のため早々に下山。

帰りは大姑娘山頂上から第一キャンプに泊まらず、草原の中一期に1,430mを下りベースキャンプまで

降りる。

24日(土)今日は快晴である。昨日BC付近は雨で登山道が水溜りになっている。ツアーリーダーがベースキャンプに入る前に「長靴があったほうが良い」と言っていたが、私はあいて用意しなかった。他のツアー客はリーロンで購入し、履き替えていた。濡れて歩くことを覚悟したが、馬で帰ることもできるとのことを聞き、即申し込みをした。日本円で5千円位、馬に揺られながらトレッキングコースを下山する。

以上

「ちばニュース」表紙についてのお願い

毎月の表紙は、「私の一名山」と題して、2010年1月から各会の持ち回りで担当していただきました。9月号の松戸岳人倶楽部で一回りします。

ご協力有難うございました。

「私の一名山」シリーズは「ちばニュース」の発行に執念を持って取り組んだ渡辺前事務局長の山への熱い思いでスタートしました。それぞれの会山行・個人山行の大事にしている思い出を伝えていただきました。

好評に後押しされて、もう一回り「私の一名山」をお届けしたいと思います。今回のシリーズは、個人からの投稿を中心に募集したいと思います。

引き続きご協力をおねがいします。

順番は決めず、自由投稿で先着順とします。

◆ 投稿連絡先・問合せ先：広木 国昭 (danphiro@zpost.plala.or.jp)



KIKUO UZAWA

鵜沢 喜久雄 さん

うざわ きくお◎1940 (昭和 15) 年、千葉県夷隅郡御用町 (現いすみ市) に生まれる。千葉大学教育学部卒業。就職に就く。1987年教員退職。大原町署を熱め2006年引退。17歳の時から山歩きを始める。千葉県勤労者山岳連盟結成に参加。千葉県連の自然保護委員長を務め、追原ダム建設を中止させるなど「房総の自然保護」の第一人者。亦わくハイキングサークル会長を歴任。著書に「歩いてみよう房総の自然」「ちばの温泉」「房総西廻めぐり」「ちば西めぐり」(いずれも書籍出版)がある。これらの発行には、奥影・権総など、妻子夫人の存在が大きな力になっている。

気候温暖な房総のファンを増やし続けて 房総半島の自然に惚れ抜いた登山人生



房総の山と溪は、優しく弱い

坂東太郎 (利根川) の河口からできた房総半島の自然は、日本一低く砂岩と泥岩でできていて、そのコースは優しく弱々しい。半島の外側には黒潮が流れており、海からの食材は豊富で、冬でもお花畑は満開。通年で山歩きが楽しめる。それに加えて、個性的な日本酒の酒蔵とひっそりした温泉も点在している。房総半島は女性と中高年の方々におすすみたい。

こう語り出した鵜沢さんは、千葉県連盟の元自然保護委員長。

学生時代は日本育英会の資金で英語を学んでいたので、金のかかる北アルプスなどには行けず、もっぱら丹沢や地元の房総を歩き回り、房総半島の特性と自然に惹かれるようになり、その恩返しとして自然保護に目がい

追原ダムと 鬼泪山の山砂採取を中止へ

千葉県連が自然保護として取り組んできた運動に、房総スカイライン建設から始まり小櫃川上流の追原ダム建設と鬼泪山からの山砂採取問題がある。追原ダムと鬼泪山は事業中止に追い込み、渓谷と山を護ることに成功した。

この運動を通じて、地元の人々と今とこれからの生活についての意見や自然との共生についての交流が深まり、保護についての運動の合意が出来たことが、成功の大きなカギとなった。

房総の山歩きをもとに4冊の本を書いた。これは、もともと房総を知ってほしい。と地元への思いがえしのつもり。カットや写真で支えてくれたのがパートナーの鵜沢幸子さん。

著作の出版以来、房総について語ってほしい。と各地の公民館などから講演の依頼があり、その都度、房総ファンが増えている。

千葉県連初りの初期にオルグで来てくれた故・古尾弘さんが「古尾は古尾流のやり方で、鵜沢君は鵜沢流でやればいい」と言ってくれたことが、私の歩みとなっている。私には房総の山があり、登山の仲間がいる。これが私の人生ですと語る。

所属する「亦わくハイキングサークル」は、房総の自然を知り尽くし自然を大事にしている山の会だ。鵜沢さんは、房総の豊かな自然を守ることをライフワークと位置付けて、山行を楽しんでいる。(千葉県連会長/広木国昭)



じゃぶじゃぶハイキングと名付けた沢歩き 房総・三間(さんま)川の林間たち

登山時報 9月号35P「ひと」の欄、う沢さんの紹介が掲載されました。1ページで、う沢さんの功績全てを紹介することは出来ませんが、房総の自然の守人・追原ダム建設中止・鬼泪山の山砂採集中止などを紹介しました。登山時報には会員からの投稿欄があります。会活動・全国にむけて発信したい事など、自由に投稿して下さい。(広木 国昭)

新特別基金全国担当者会議（第4回）報告

副理事長 鶴田 秀雄
(全国新特別基金運営委員)

全国連盟新特別基金委員会の主催により、各地方連盟の基金担当者会議が開催されました。千葉県連盟からは、桑原ハイキング委員長に出席をお願いしました。本来ならば、各会の基金担当者・県連役員が出席すべきですが都合がつかず、桑原さんにご負担をおかけしました。

【期日および場所】

2011年6月18日～19日 神奈川県三浦海岸 マホロバ・マインズ三浦

【出席者】

30 地方連盟から 31 名 主として会長、理事長、事務局長など役員
全国連盟から 斎藤理事長、川嶋事務局長、基金管理運営委員会メンバー

【議事】

I. 保険業法再改定法案の成立と労山遭対基金の行方（斎藤理事長）

今年の5月に施行された再改定保険業法は、多くの自主共済の「原状復帰」を無条件で認めるものではなく5年後の見直しも定めているので、懇話会は解散せずに活動を続ける。

II. 特別基金の経過と現状の報告（高橋新特別基金運営委員長）

この10年間の推移をみると加入者が年々減少し、払込金の減少も2006年以降顕著である。しかし、加入者減少にもかかわらず、交付人数はほとんど変わっていない。交付率は01年度と10年度を比較すると逆に上がっている。さらに、会員の基金への意識が、会全体の事故防止の努力に対する補償ではなく、事故に対する補償としてだけの「保険」意識への変化もみられる。

III. テーマ討論

次の3点について事前のアンケート調査を行い会議の場で討論を行った。

1. ドアツードア

アンケートでは廃止をとする意見が多かった。当日の意見でも「登山口から下山口」「集合場所から解散場所まで」「登山中+移動中」などとして改定が必要だとする意見が多かったが「基金勧誘のポイントにしている」「始めたことは継続が必要」など、改定に反対の意見も強かった。

2. 3倍交付

アンケートと当日の意見共に何らかの上限制約を設けて継続するという意見が多かった。上限としては口数上限や交付金額上限、また入通院補償については支払い実費を超えない範囲とする等の提案があった。

3. 救助搜索費用

おおむね現状に満足し維持を望む声が多かった。要望として「出動手当基準の明確化」「交付基準の明確化」など理念だけではなく補償の範囲を明文化してほしいという要望が多かった。

IV. まとめ

今回の会議での意見要望を踏まえ、基金運営委員会で改善案を作成し全国理事会に提案する。

(文責 鶴田 秀雄)

千葉県勤労者山岳連盟東北支援

陣	日程	場所	参加会	総人数	活動内容
1	4/7~10	気仙沼	ちば山の会	10	被災個人宅家財道具搬出
2	4/8(夜) ~11	気仙沼、 石巻(立町)	ACT峰友、山の会岳樺クラブ 君津ケルン山の会、松戸山の会 ふわくハイキングサークル、東葛山の会 松戸遠足クラブさくら組、船橋勤労者山の会	25	気仙沼:同上 石巻:繁華街道路のヘドロ 除去 :被災個人宅家財道具搬 出
3	4/15~18	気仙沼	船橋勤労者山の会、ちば山の会	12	被災個人宅家財道具搬出
4	4/28(夜) ~5/1	気仙沼	船橋勤労者山の会、松戸山の会 ふわくハイキングサークル、東葛山の会 かがりび山の会、山の会らんたん、 山の会岳樺クラブ、千葉こまくさハイキングクラブ 松戸遠足クラブさくら組、会員外	50	被災個人宅家財道具搬 出・移動 被災個人宅内部清掃、床 下のヘドロ出し
5	5/3~8	気仙沼	ちば山の会、船橋勤労者山の会(3~5)	14	同上、海岸清掃
6	5/13(夜) ~16	石巻(門脇)	船橋勤労者山の会、松戸山の会 シリウス山の会、ACT峰友、山の会岳樺クラブ、 会員外	13	ビニールハウス内のがれ き撤去・土砂除去 宮城県連・石巻労山との 交流
7	5/19(夜) ~22	石巻(門脇)	船橋勤労者山の会、会員外	6	ビニールハウス内のがれ き撤去・土砂除去
8	5/20(夜) ~22	気仙沼	かがりび山の会	11	海岸清掃
9	5/26(夜) ~29	石巻(大街道)	東葛山の会	5	ビニールハウス内のがれ き撤去・土砂除去
10	6/3(夜) ~5	石巻(渡波)	船橋勤労者山の会、松戸山の会、山の会らんたん 、ふわくハイキングサークル	6	ビニールハウス内のがれ き撤去・土砂除去
11	6/17(夜) ~19	石巻(門脇) 東松島市 (大曲)	船橋勤労者山の会、松戸山の会、ちば山の会、 ふわくハイキングサークル、東葛山の会、君津ケ ルン山の会、山の会らんたん、山の会岳樺クラ ブ、千葉こまくさハイキングクラブ、成田ラテルネ 山の会、岳人あびこ、茂原道標山の会、山の会 岳樺クラブ、会員外	52	ビニールハウス内のがれ き撤去・土砂除去
12	7/1(夜) ~3	石巻(北上)	船橋勤労者山の会、松戸山の会、ちば山の会、 ACT峰友、シリウス山の会	15	田んぼのがれき撤去
13	7/15(夜) ~18	石巻(北上)	船橋勤労者山の会、松戸山の会、ちば山の会、 ACT峰友、ふわくハイキングサークル、東葛山の 会、千葉こまくさハイキングクラブ、成田ラテルネ 山の会、岳人あびこ、山の会らんたん、かがりび 山の会、山の会岳樺クラブ	34	田んぼのがれき撤去
合計				253	

石巻支援に参加して（岳人あびこ）

今回、私たちの支援活動がスムーズに行えたのは、理事長の吉田さんをはじめ、多くの方の懸命の支えがあったのでした。船橋の会の岩本さんがマイクロバス（23人）の運転をしてくださり、岳人あびこ3人はそれに便乗させてもらいました。また、買い出しや食事作りは佐藤さんが中心になって全て整えてくださいました。県連から2食分（夕・朝）の食費の補助が出たので、今回の経費は6千円（レンタカー代・2日間の温泉代込み）。宿泊は農協の体育館。食事は52名分を一緒に作って合同の夕朝食（外で火を使ってはいけないとのこと）。今後も石巻での宿泊はここ（ガス・水道・トイレは使える）になるとのことです。

帰って翌日、会の会報に感想を寄せたので、その抜粋と武内さん撮影の写真をお送りします。作業前と後のハウス内の様子はいかがですか、きれいになったでしょう？（文責中村）

武内勇二

労山関東ブロックの大震災支援の千葉県連52名の一員として石巻支援に参加しました。6月17日（金）夜9時に新鎌ヶ谷駅に集合、マイクロバスと自家用車に分乗して出発。当初あびこからの3名は車で現地に入る予定だったが、運よく船橋の仲間が運転をかってでてくれ、マイクロバスに乗せてくれたのはラッキーだった。東北道菅生IC内で、県連用意のテントで仮眠後、石巻に向かった。心配した通勤ラッシュにも遭わず、8時の集合に間があるので、石巻港近くの大曲地区の被害状況を見せてもらった。かつては豊かな水田地帯であった所が、津波に洗われ瓦礫が散乱、荒涼とした荒地に変わっていた。田に漁船が残され、散乱する瓦礫に混じった小さな三角屋根は川岸のブロックが流されたものだった。道路は陥没し通行不能、津波で破壊された家が全く手付かず半壊の状態而建っていた。地形は平坦で、低い山が遥か遠くに連なっているだけ。避難できる高い場所はなく、住んでいた住民は車で逃げおおせただろうか。100年に1度の大津波を心配して、「ここに住むな」というのはとても無理な話だと思う。頑丈な建物を造り避難場所にするしかないだろう。

ハウス横の道具置き場には農協が準備してくれた、一輪車、熊手、長い柄の鎌、スコップその他作業に必要な道具が準備されていた。新しいものもあり今回の支援に備えて準備してくれたと思われる。5月のボランティアでは道具不足で動きが制約されたと県連ニュースにあったので、自宅からスコップ一本持参したが、必要ではなかった。ボランティアをする側、受け入れる側も経験を積んで事前準備がしっかりと出来るようになったのだろう。

作業前のハウスは、上からビニールがぶら下がり、瓦礫が散乱して見る影もない状態だったが、幸いにも土は乾いていた。土埃と汗にまみれて、破れたビニールの撤去と瓦礫の分別撤去が進んだ。30名を超えるマンパワーは

さすがにすごい。約1時間働いて10分休みのゆったりとした作業ペースに拘わらず、午前中にまず1棟の瓦礫撤去に目鼻がついた。

道路脇にへたり込んでの昼食だったが、幸いにも曇り空で適度に風もあり疲れも回復できた。午後は3時までと時間を区切って作業開始、午前が続いて1棟目の泥出しと2棟目の瓦礫撤去を行った。大分要領が良くなって作業はどんどん進み、作業終了時点ではハウス内が大分すっきりとした状態までこぎ着けた。但し、2棟目のハウス内には、流れ着いた車が何台も折り重なっている箇所があり、これだけは人力では如何ともし難いのでそのままとせざるを得なかった。

本日は、地震大津波から丁度100日目の区切りにあたり、2時46分にあわせ作業の手を休めて黙祷した。

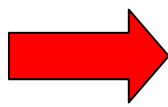
作業終了後、女川、大川の被災地をバスで回った。ビルが横倒しになり、土台を残して根こそぎ持って行かれた家、残された家とても住めるような状態にない廃墟と思しき惨状に思わず驚愕の溜め息が洩れる。70名を越す生徒が犠牲になった大川小学校の現場は、まさに北上川の本流近くの低地にあり、裏山が近くにあるにもかかわらず何で山に逃げなかったのだろうかと訝しく思われる。地震の際の津波は頭になかったのだろうか。何で橋の方向に逃げたのだろうか。生徒が流された橋の袂の高台に花束が置かれ、犠牲者を追悼している人々の姿があった。何とも痛ましい。(略)

翌朝は晴れの天気。暑くなるので予定を早め7時20分頃から作業開始、1棟目、2棟目の泥出し作業をの継続により、すっかりきれいになった。作業を切り上げるに当たって、Kさんの奥さんから津波のときの話があった。ハウス近くのKさんの家は1階天井付近まで浸水、近くに住む娘さんの3階のアパートに歩いて避難して難を逃れたとのこと。着いたときは直ぐ後まで水が迫り、まさに危機一髪だったとのこと、渋滞した車が人を乗せたまま流されて行くのが見えたという。津波後3日間は水が引かず、ボートに乗ってハウスの状態を見に来た時には呆然自失、これからどうしようと途方にくれたという。幸いにも一家6名は全員無事だった。親戚の方6名を失い、畑の復旧のため体を動かしているから気がまぎれるが、じっとしているとたまらなく辛い思いがこみあげてくるという。涙ぐみながらのお話に思わず貰い泣きしそうになった。現在は避難所暮らしということですが、お礼とともに「今後も頑張っていく」との言葉があり、ボランティアし甲斐があったとの何とも清々しい気持ちになり、逆に勇気を貰った気がした。今回は山登りではないが、山から下山したときに味わう達成感があった。県連の他の会のメンバーの殆どの方とは初対面であったが、山という共通項で一致する仲間達なので、打ち解けるのも早い。和気あいあいと和やかに、こんなことでもなければやらない辛い仕事も不平の一言も言わずに頑張れたと思う。

中村育子

私たちが支援に行った農家は、津波が2メートルの高さになり、4日間も水が引かなかったという場所でした。ビニールハウス5つのうち3つがつぶれ、つぶれずに残った2つのハウスの入口には、泥だらけのビニールが垂れ下がっていました。仕事は多岐にわたりました。大型機械を運び出す、支柱にからまったビニールを剥がす、垂れ下がった紐を片付ける、埋もれたパイプやビニールを泥土の中から引きずり出す、がれきをスコップで掻き出す、熊手でかき集める、手押し車で運ぶ、等。瓦礫を片付けてゆくと、土の中から津波で流されてきたものが次々出てきます。雑誌・カバン・CD・衣類・茶碗のかけら・花瓶等。掘っても掘っても出てきました。つぶれた3つめのハウスの支柱の所に、流れてきた乗用車が5台、一列縦隊に重なって並んでいました。その周辺は手つかずのまま、ビニールを引きずり出すと汚泥から悪臭が出て、そのまま消えません。でもひどい腐敗臭やハエの大量発生など、心配するようなことはありませんでした。瓦礫撤去は声をかけ合い、賑やかにやるのが大事でした。

最後に家主の奥さんが挨拶されました。ご当主は2つの葬式に行っているということでした。毎日することがあって気を張っているから元気そうにしているけれど、と喋って言葉を詰まらせて横を向いた時は、私たちももらい泣きをしてしまいました。土は塩でやられているので、このままでは使えないのだそうですが、大変喜んでくださいました。休憩の時に、「どれだけの人がもどってくるか・・・」といわれた時に、そこに残る人たちの悲しみの大きさはいかばかりかと思いました。親しい人や豊かな海山を失っただけではなく、これからも失ってゆくかも知れない、その寂しさにじっと耐えているのだと感じました。今欲しいものは車だそうです。車無しにこの広大な土地を動くことはできない、と一同すぐに納得しました。



作業の成果



被災地支援活動についての案内

関東ブロックは、第1・第2土曜・日曜を統一行動として支援活動を再開します。(8月は、被災地の事情、会員の山行を補償するため休み) 各会からの参加協力をお願いします。

連絡は：吉田理事長まで (tetsu195715@aol.com)

第13陣 震災ボランティア支援活動報告（松戸山の会）

期 間 2011年7月16日（土）～18日（月）二泊三日 前夜発 車利用
場 所 石巻 北上町地区 農地瓦礫撤去
参加者 松戸山の会・・ 桑原年、太田、斉藤ち、伊藤當、桑原佑、 5名
千葉県連 12会 34名+（群馬5名、茨城2名、東京2名）

行動概要

7月15日（金）20：00 松戸市民劇場集合・桑原、吉田、矢島其々の車に分乗 20：30
出発東北道＝菅生PAで他会グループと合流・仮眠
7月16日（土）4：30 起床 5：40 出発＝石巻河北IC＝道の駅上品＝JAバンク集合
＝9：30 現地水田瓦礫撤去作業開始・15：00 終了＝女川・大川小学校跡
＝道の駅上品入浴＝18：00 水沼改善センター 泊
7月17日（日）7：20 出発＝JAバンク（広木会長、群馬、茨城、東京、）合流＝9：
00 昨日同じ水田瓦礫撤去作業開始・15：00 終了＝道の駅上品入浴＝17：
00 水沼改善センター 交流会 泊
7月18日（月）作業なし・集合写真を撮り、解散・其々に別れる。（桑原、吉田）車
の行動・・水沼山・
＝女川漁港を市民病院高台より見学・＝女川原発方面＝石巻港・市内～日
和山公園より石巻市内の惨状を一望 12：00/13：00＝石巻港IC＝三陸・
東北・外環＝三郷南＝20：30 松戸着

石巻ははじめての参加ですが、港地区の惨状はまだ残っているが街中は徐々に整理されてきた様に見えた。でも中にはぜんぜん手を付けずに放ってある家も見受けられた。だが、自然はすごい野山は緑いっぱい、今度入った田圃も緑一色になっていた。しかも雑草の中に鴨か鷺かが巣をつくり卵8個も抱いていたのを見つけて皆びっくりした。ただ田の中にガレキの山があるのでそれと分かった。四か月前あの大津波が家や車や人間まで押し寄せて来たのかと思うと頭がおかしくなる。

一日目はいくらか雲も出て田圃の中の瓦礫をあぜ道脇に積む作業も（手で運ぶ人・一輪車で沢山運ぶ人）はかどりと、時間までに終わった。初めての人が多いので帰りに対岸（すぐ近くに大橋があるが津波で半分押し流されて不能の為）を大回りして女川の小さな生徒達の犠牲になった大川小学校跡に行き「献花台」の所でお祈りし、崩落した大橋と残骸をみて、途中の「道の駅ふたご湯」で汗を流し、本日の宿泊地に迷いながら到着、一日が終わる。

二日目はピーカン快晴。上空さえぎる物なし、車と車の間に持参のターフで影を作り凌ぐ、わが車はクーラーをビンビン掛けて凌いだ。仕事も作日と違って大変、中の大瓦礫を脇に寄せる作業、（後で聞いた話では自衛隊が犠牲者を探すために掘り起こし何体か発見した所とか）家財、畳、衣類、多種雑多で大変、30分毎に休憩を入れて、時間までに何とか終る事が出来た。急ぎ道の駅で汗を流し宿泊地に戻り、くつろぐ。

三日目は仕事なし。解散・他車と分かれて吉田車と2台で前理事長岡さんの奥方の案内で地元の山「水沼山」まで軽登山を楽しむ。山頂からは大川小学校方面が望めそこに鎮魂の碑も新しく建ててあった。終わって女川港の惨状を女川病院の高台から望み（聞けばここ30メートルはある病院の一階まで犠牲になった）女川原発方面を経て石巻港から中心部を一望出来る「日和山公園」で惨状を見、一休みして帰路に就きました。

復興はしているもののまだまだ長い年月が掛ると思います。我が県連では8月はお休みにして9月から第一週土、日と第三週の土、日を予定していますので続いて無理せずにボランティア支援をお願いします。

（松戸山の会 桑原年一 記）

私達は水沼より女川の被災地を回ってきました。

5月に回った時に見えたものはパノラマの瓦礫の山と鼻に衝く臭い。自衛隊の復興支援のトラックの列とキャタビラ車。これが日本の国かと思われました。人影はなく、ボランティアや調査に入っている何人かのグループだけでした。

今回はメイン道路の両サイドの瓦礫は片付き、鼻を衝く臭いもほとんどなく、シンボルのようになっていた、3階ビルの屋上に引っかかっていた車も片付けられていました。魚市場では少ないながらも、水揚げ中でこれからセリを始めるとの事でした。わずか数か月で「ずいぶん進んだ部分もある」事を実感しました。

でも、ほとんどまだまだマイナス状態。まだ「4ヵ月」。数か月単位で復興できるわけがない「大きく 広範囲な 災害」。これからも、できるだけ無理のない範囲で支援を続けて行きたいと思っています。

（松戸山の会 伊藤當志美 記）

千葉県連盟の支援活動については、当月号・7ページに吉田理事長の報告が掲載されています。13回・253名の参加による、活動内容が報告されています。

また、近日発行される「ろうさんニュース」第22号にも各地方連盟による支援活動（3月～7月）が掲載されています。

この2つの報告から、全国の地方連盟の中でも千葉県連盟の支援活動は回数・参加人数など圧倒的に多い。これは、吉田理事長を中心とした各会の先進的な取り組みの成果です。

参加者には、交通費・食費など全て個人負担で参加をお願いしています。参加回数が増えれば財政負担も大きくなります。

今後の支援活動を見据える時期かと思えます。被災地と支援者による長期の支援活動を構築する必要を強く感じます。

（文責 千葉県連会長 広木 国昭）

東日本大震災ボランティア活動(石巻市)に参加する

東葛山の会 渡辺 實

去る七月十六、十七、十八の三日間。東日本大震災ボランティア活動に参加してきた。参加のきっかけは、所属する東葛山の会が活動の一として取り組む呼びかけによるが、私自身は別の思いもあった。大震災に見舞われたこの地方は、私には忘れられない思い出のある場所で、「今を確認」してみたいという理由があった。十八年前の平成五年八月、一ヶ月間をかけて鎌ヶ谷市から青森駅まで歩く旅をした。コースはできるだけ暮らしの場、生活の様子が見える道を選び、主に海に近い位置を歩いた。大震災の後、辿った道を調べてみると茨城、福島、宮城、岩手、青森までの全ての地域が、大津波の中に飲み込まれていた。

この旅の中では多くの人に出会い、いろいろな形でお世話になった。原町市のおばあさんは『これから畑の草取りに行くが、青森まで歩くとほとんどない話』と自分のために用意した飲み水を分けてくれ。鹿島市の喫茶店のおばさんに今晚の宿を相談すると、お客さんの注文の合い間に方々の知り合いの旅館に電話をかけてくれ、場所が遠いからと「車で送る」と強引?に乗せられ、送ってもらった事もある。又、三陸町の旅館のおかみさんは、泊まり客が私だけということもあって、夕飯の時に私の膳の前に座り、蟹の身をとり出してくれながら、私が歩いてきた旅の途中の話や三陸町の暮らしの事など、話し相手になってくれ、一人歩きの心の隙間をうめてもらった。

人それぞれに旅の楽しみは違うだろうが、人との交わりの中で受ける人情に勝るものはないと思っている。今回のボランティア参加は、この旅の中で出会った人達のやさしさに、万分の一でもお返ししたいという気持からでもあった。

ボランティアの現場は北上川に沿った石巻市北上町の田圃。新聞の報道によると津波は北上川を十五キロも遡上したとある。現場の田圃はヘドロが積もり、流されてきた柱、板などの木材、畳、戸障子、布団など暮らしの中で大事に使われていた多くの家財道具が散乱し、埋もれていた。作業は散乱物を拾い、掘り起こし、所定の場所に集める単純作業だが、四、五人がかりの大物もあって、強い日差しの中できつかった。

作業の中で思い続けた事は田圃の復旧。果たして元の田圃に回復できるだろうか。農家にとっては先祖伝来、一畝一畝、精魂込めて育て、作り上げてきた大事な土地。天変地変の災難とはいえ『この世には神も仏もあるものか』という農家の人達の呻きの声が聞こえてくる風景であった。


十八日、女川港や石巻市の市街地の一部を訪ねてみたが、改めて津波の威力、被害の大きさに驚くばかりだった。あの日から間もなく五ヶ月。復興の勢いは見られなかった。『周囲の人達にこの有様を伝えてください』大津波で暮らしの基盤を根こそぎ失った被災者の思いはこの一点にあるように思う。

東日本大震災復興支援Tシャツ販売

価格：2500円（復興支援カンパ1000円を含む）

色とサイズ：オレンジ（S、M、L） 紺（S、M、L、LL）
※サイズの目安は男性用です。

デザイン： 胸に東北の山 岩手山（絵は「かがりび山の会」石井さん）
鳥海山（絵は画家・熊谷樞さん）

左上腕に  JWAF 東日本大震災復興支援

材質：ダクロン（70%）と綿（30%）の混紡



申し込み先：
日本勤労者山岳連盟

メール：jwaf@jwaf.jp
FAX：03-3235-4324

申込方法：
できるだけ会・クラブ単位
で、図柄、色、サイズ、
枚数と送付先の郵便番号、
住所、氏名、電話番号を
メールまたはFAXで
「東日本大震災復興支援
労山特製Tシャツ係」まで

支払い方法：Tシャツに同封する郵便振替用紙で振り込んで下さい。
※送料は全国連盟負担です。
※当初の製作は1000枚です。色柄サイズ切れの場合は
一ヶ月ほど時間がかかります。
※大量注文の場合は色・サイズなど、別途ご相談下さい。

2011年7月30日

各会代表者 様
県連理事 様

千葉県連盟 会長
広木 国昭

「個人会員制度」導入と組織強化の具体的提案・2次案の討議のお願い

日頃、千葉県連活動にご協力いただき有難うございます。
また、東日本大震災支援活動に参加・ご協力にお礼を申し上げます。
さて、昨年2月の全国総会において「個人会員制度」が提案されました。
そして、今年2月の全国評議会にて個人会員制の導入にむけて全国討議を実施することが確認されました。

今回、全国連盟より「個人会員制度」第2次案が提案されました。この提案を受けて各会の皆様に下記日程で討議をお願いいたします。

記

1、全国連盟の予定について。

①「個人会員制度」第2次案のまとめ。

11月3日（木）の全国評議会にて最終討議を実施。

②11月の全国評議会の結果をうけて、翌年2月の全国総会で導入を決定。

2、千葉県連盟の予定について。

①各会に「個人会員制度」第2次案を送り、討議をお願いする。

②8月18日（木）県連理事会において討議を実施。

③9月10日（土）各会代表者・県連理事合同会議にて討議を実施。

④10月13日（木）（予定）県連理事会・拡大部会 合同会議にて集約。

⑤11月3日（木）全国評議会出席。

3、拡大検討部会の取り組みについて。

① 拡大部会実施日 8月25日（木） 9月22日（木）

10月13日（木）県連理事会 合同会議

② 千葉県連盟で実施する「個人会員制度」の詳細についての検討。

以上

- ◆ 参考資料として、2010年度総会・1011年度総会で確認された、千葉県連の組織強化・会員拡大の取り組みを紹介します。
- ・ 質問・ご意見は、県連ホームページ「事務局への問合せ」までお願いいたします。

「個人会員制度」導入と組織強化の具体的提案・第2次案

2011年07月27日 日本勤労者山岳連盟理事会

はじめに

わたしたちは、労山創立の原点である「国民的な登山の普及」の目的に立ち返り、さまざまな事情により山岳会に加入していない未組織登山者を、より緩やかな組織形態で仲間として受け入れ、登山知識や技術を学べる機会を提供していきたいと思う。

わたしたちが「個人会員制度」を導入することは、労山が民主的な山岳団体としての本来の社会的な役割を果たしていくことでもある。また同時に、労山の既存の山岳会・クラブが会員を増やす努力を一層強め、個人会員の仲間とも協力しながら、車の両輪のごとく切磋琢磨していくことは双方の利益にかなうことでもある。多数の若者を含めた個人会員を労山の仲間として迎え入れることができれば、事故を減らし登山文化の継承にも役立つことになる。同時に、組織の拡大・活性化が図られている会・クラブがある一方で、高齢化し会員数を減らし続けている地方の現状を打開し、組織の再活性化にもつながる。

全国連盟理事会は、2010年2月の全国総会で「個人会員制度」導入と組織強化方針を提案した。この論議をより深めるため2010年5月、全国組織担当者会議を開催し、議論を深めた。

さらに、全国連盟理事会に個人会員制導入のプロジェクトチームを設置し、理事会の論議を経て、制度の具体案として2011年2月評議会前に具体案を提案した。この評議会の中で様々な意見が出された。この意見を反映させ、提案の補強と整理、根拠資料提供を行う、個人会員制導入第2次プロジェクトチームを全国連盟理事会に設置した。

再び理事会の論議を経て、この提案を行う。この案をもとに各地方連盟で個人会員制度導入の議論をお願いしたい。本年11月3日の第2回評議会を経て、2012年2月に開催する第30回総会で導入の可否を議決する。

1 個人会員制度の基本方針

- ①個人会員制度は、広範な未組織登山者に登山知識・技術を学ぶ機会をつくり、山での事故を減らし、登山文化の発展に寄与するという労山の基本理念を全国の登山愛好家の中に広く普及し、組織することを目的とする。
- ②個人会員制度は、労山の全く新しい組織制度として導入する。
個人会員は、会・クラブの団体組織とともに労山の基礎組織を構成し、相互のパートナーシップ（仲間づくり）の確立をめざす。
- ③個人会員制度は、新特別基金を適用せず、個人会員独自の遭難対策補償制度とする。
- ④地方連盟の個人会員制度については、全国連盟の個人会員制度と最終的統合が可能となる統合の標準を設定し、統合を促進する。

2 個人会員制度導入の制度設計

1) 個人会員の対象と当面の組織目標

- ①未組織の広範な登山愛好者を入会の対象とする。
- ②会員は、原則として電子メールを使えること。
- ③当面の組織目標を2年間で1万人とする。

2) 個人会員制度の移行工程

労山全国連盟機関会議で導入決定後

- ① 全国連盟制度として実施、導入可能な地方連盟は随時実施する。
- ② 準備の出来た地方連盟から遅くとも5年程度を目途に導入する。
- ③ 導入困難な地方連盟については、引き続き全国連盟で運営し、協議をすすめる。

3) 個人会員制度の概要

① 個人会員の愛称

「ろうさんパートナーズ」(仮称)と称する。

※パートナーズとは、「共同で仕事をする相手たち。相棒たち。仲間たち。」であり、労山の仲間であり、共同で組織を作り上げることを念頭に置いたネーミングである。

② 個人会員の権利と義務

個人会員制度の導入時には、個人会員の権利と義務は、現行規約に準じた権利と義務にもとづき規約を改正し明文化をはかる。

③ 個人会員の利用可能制度と特典

項目	内容
①学習事務費	
個人会員証	入会時発行交付
労山ニュース	3ヶ月に1回送付
山行管理システム利用	計画書の事前提出・入・下山の報告と管理
学習・教育システム利用 (全国連盟・地方連盟で実施)	安全登山・事故減少の教育、講習会など。 参加費は基本的に自己負担とする。
ナマステ・情報ネット	メールニュース。
ナマステ・モバイル	携帯版メールニュース
ビデオ・コンテンツ館利用	労山版ユーチューブ
優待施設割引利用	山岳用品店・山小屋など契約諸施設
地方連盟登山学校参加	所属連盟の枠を超え参加可。参加費自己負担。
労山の行事・集会参加	全てに参加可。参加費自己負担
学習ネット講座参加	全てに受講可。参加費は各自負担
全国総会参加	当面は傍聴参加とする。
地方連盟総会参加	地方連盟規約による。
②遭難事故対策補償制度	
救助・捜索費	規定により救助捜索の結果に応じて支給
死亡見舞金	規定の額により支給
入通院見舞金	規定の額により事故内容に応じて支給
海外トレッキング見舞金	規定の額により支給

④登山者安全対策と教育

ア) 個人会員の安全登山及び技術、事故減少の意識向上に重点を置いた教育を実施する。

○安全登山教育

- ・自主的な学習を促す。内外の登山者教育情報を伝える。労山作成のハイキングABC、セカンドステップ、安全対策マニュアル、登山中の疾病対策などの出版物を提供する。(テキストは随時、メディア局と遭対部が連携して作成する)
- ・テキストは、紙ベース・DVD・HP・ナマステメールなどで作成する。
- ・全国連盟・都道府県連盟の実施する教育・登山学校・講習会に参加できる。
- ・登山技術の基礎講座を中心に実施する。

イ) 個人会員に労山と個人会員制度を理解してもらう学習を行う。

○新加入個人会員教育(テキストはメディア局と組織部が連携して作成する)

- ・入会ガイドブックを配布する。
- ・個人会員対象のオリエンテーションを実施する。
- ・労山についての紹介を行う。
- ・個人会員の義務などについて説明する。

⑤山行管理

個人会員の事故・遭難などに対し自己責任を明確にした安全登山のための山行管理とシステムを導入する。

(1) 計画書提出および入山・下山連絡について

ア) 個人会員制導入と同時にスタートさせる。

イ) 計画書の提出と入山・下山連絡の方法

- ・統一されたスタンダード計画書で提出する。
- ・宿泊を伴う山行は1週間前までに提出する。
- ・日帰り山行も計画書の提出をする。
- ・計画書提出および入山・下山連絡はパソコンと携帯電話からのメールとし、郵便、FAX、電話による受け付けは行わない。

ウ) 下山報告がない場合の対応

- ①本人の携帯電話などに連絡をする。
- ②本人と連絡が取れない場合、本人が指定した緊急連絡先へ連絡をする。
- ③緊急連絡先にも本人から連絡がない場合、管轄警察署へ情報の問合せを行う。
- ④本人下山が確認できない場合、山行管理グループで協議し遭難か否か判断する。
- ⑤上記で遭難と判断した場合、緊急連絡先・家族に遭難捜索救助依頼をする旨を伝える。
- ⑥管轄警察署に遭難事故発生を伝える。
- ⑦遭難事故処理までの対応、長期の捜索等にはその都度、管理グループで対応を判断する。

エ) 個人会員山行管理の方法

○初期

以下のA、Bの2制度で同時スタートさせる。

- ・A 全国連盟遭難対策部が窓口。

- ・ B 都道府県連盟遭難対策部が窓口。

○中期

個人会員が初期の制度で対応できなくなる発展時には、労山システムと山行管理システムを構築する。このシステムには都道府県連盟の遭難対策担当者も参加できるものとする。

山行計画書は専用の記号化されたフォーマット（別添資料参照）に、年齢、男女、山行形態、山域、山名、過去の事故、本人の事故歴、歩行時間などで山行の危険度を判定できるようにする。結果を提出者に知らせアドバイスを行う。

山行管理システムの運営には専門担当者を個人会員数の規模に応じて人員を配置する。

○個人会員制度完成期

中期システムに改良を加え、より完成度の高いものとする。

(2) 携帯メール利用による「山行管理システム」の構築について

費用面や利便性などを含め、メディア局や事務局など担当部署を決め具体的検討を行う。

⑥会費とその構成費用の設定

- ・会費は、基本型年額 8,000 円、Ⅱ型 12,000 円で一括前納払いとする。
- ・会費の支払い方法は、労山の指定する方法で行う。
- ・基本型の年会費の構成は次の表のとおりとする。

年会費の構成		8,000 円
①学習事務費		5,000 円
事務費	1,500 円(専従者 2 名)	
ネット情報費	600 円	
行事・学習費	600 円	
地方事務費	1,600 円	
労山ニュース	700 円 (年 4 回発行)	
②遭難事故対策補償制度※ 1		3,000 円
救助捜索費※ 2	補償限度額	2,000,000 円
死亡見舞金		100,000 円
入院見舞金	(3～30 日)	30,000 円
長期入院見舞金	(31 日以上)	50,000 円
通院見舞金	(3～10 日)	5,000 円
長期通院見舞金	(11 日以上)	10,000 円
海外トレッキング見舞金※ 3		30,000 円

※ 1. 対象は、海外トレッキング見舞金を除き、日本国内の山行事故。補償費の申請は年間 2 回まで可。補償を受けるには山行前に計画書提出が必要。山行前に計画書未提出の場合は、補償不可。

※ 2. 親族関係者駆けつけ交通費、遺体搬送費ともに、それぞれ 50,000 円を限度に支給。

※ 3. 5,000m 以下のトレッキング山行中の事故により、3 日以上の入通院をした場合、

又は救助捜索を要した場合に適用。

- ・Ⅱ型の年会費の構成は次の表のとおりとする。

年会費の構成		12,000円
①学習事務費	上記に同じ	5,000円
②遭難事故対策補償制度	上記に同じ	3,000円
③登山時報購読料	(「250+68」×12=3,816円→)	4,000円

⑦個人会員制の事務処理体制について

今後の個人会員制導入後の事務処理量の増加に応じた、事務処理者の雇用は、労山全体の予算や事務局体制を検討し、機関会議での決定を受けたもとで配置する。

⑧地方連盟の役割

(1) 地方事務費について

①地方事務費の設定

個人会員との交流・仲間づくりのために該当地方連盟に地方事務費を交付する。

②地方事務費の交付対象

交付対象は、各地方連盟の総会等で個人会員制導入を決定し、全国連盟に通知した地方連盟とする。

③地方事務費交付基準と明細書提出

【地方事務費交付基準】

- ・交付基準は、前年11月現勢の該当地方連盟所属個人会員数にもとづき算定された地方事務費を、当該年3月に該当地方連盟に交付する。
- ・個人会員の登録は、原則として加入時の本人居住地となります。したがって、個人会員数は、個人会員登録地の地方連盟ごとに算定されます。

【明細書提出規定】

- ・明細書は地方事務費が交付された年度の1月から12月までの明細とし、翌年1月末日までに該当地方連盟は全国連盟に提出する義務がある。
- ・提出する明細書は全国連盟規定のものを使用する。

(2) 個人会員制度での導入決定地方連盟の具体的活動など

- ・導入決定地方連盟（以下、導入地方連盟という）は、入会ガイドブックを配布し、個人会員対象のオリエンテーションを実施し、労山についての紹介を行うとともに個人会員の義務などについて説明をする。
- ・導入地方連盟は公開の登山学校や学習会、クリーンハイクなど個人会員の参加できる行事を通し、個人会員との交流を図る。
- ・個人会員にHPなどで、公開行事の情報や加盟山岳会、クラブの情報についても発信する。
- ・個人会員も地方連盟・山岳会やクラブの公開行事などに積極的に参加し、お互いに協力・協同の関係を構築する。
- ・導入地方連盟は、個人会員の安全登山及び技術、事故減少の意識向上に重点を置いた教育の実施に努力する。

- ・導入当初は、導入地方連盟は全国連盟と協議のうえ、当面は労山個人会員制度での、基本的な実務手続きは、全国連盟がその多くを引き続き担当することとすることができる。

2次案の提案までの経緯について

2010年2月に開催された、第29期全国連盟総会において「個人会員制度」導入と組織強化方針を提案した。この提案の主旨を理解し、論議を深めるため5月29・30日、全国組織担当者会議を開催した。

さらに、全国連盟理事会に個人会員制度導入に関するプロジェクトチームを設置し、理事会の論議を経て、個人会員制度の具体案を2011年2月全国評議会に提案した。この評議会に出された多くの意見・要望に沿って、提案内容の補強と整理、根拠資料の提供等を行うために、個人会員制度導入第2次プロジェクトチームを設置した。

そして、5回のプロジェクト会議と2回の理事会討議を行い、今回提案する「個人会員制度」導入と組織強化の具体的提案・第2次案を構築した。

この提案をもとに、全国の各地方連盟・各会・クラブで「個人会員制度導入」の議論をお願いした。

千葉県連盟では、各会での討議に加え、8月18日の県連理事会・9月10日に実施する各会代表者・県連理事合同会議での討議を行い、10月13日の県連理事会で集約をしたい。

11月3日の全国評議会には、評議員1名が招集されている。拡大検討部会から、1名が傍聴者として出席する予定である。

千葉県連盟の個人会員制度について

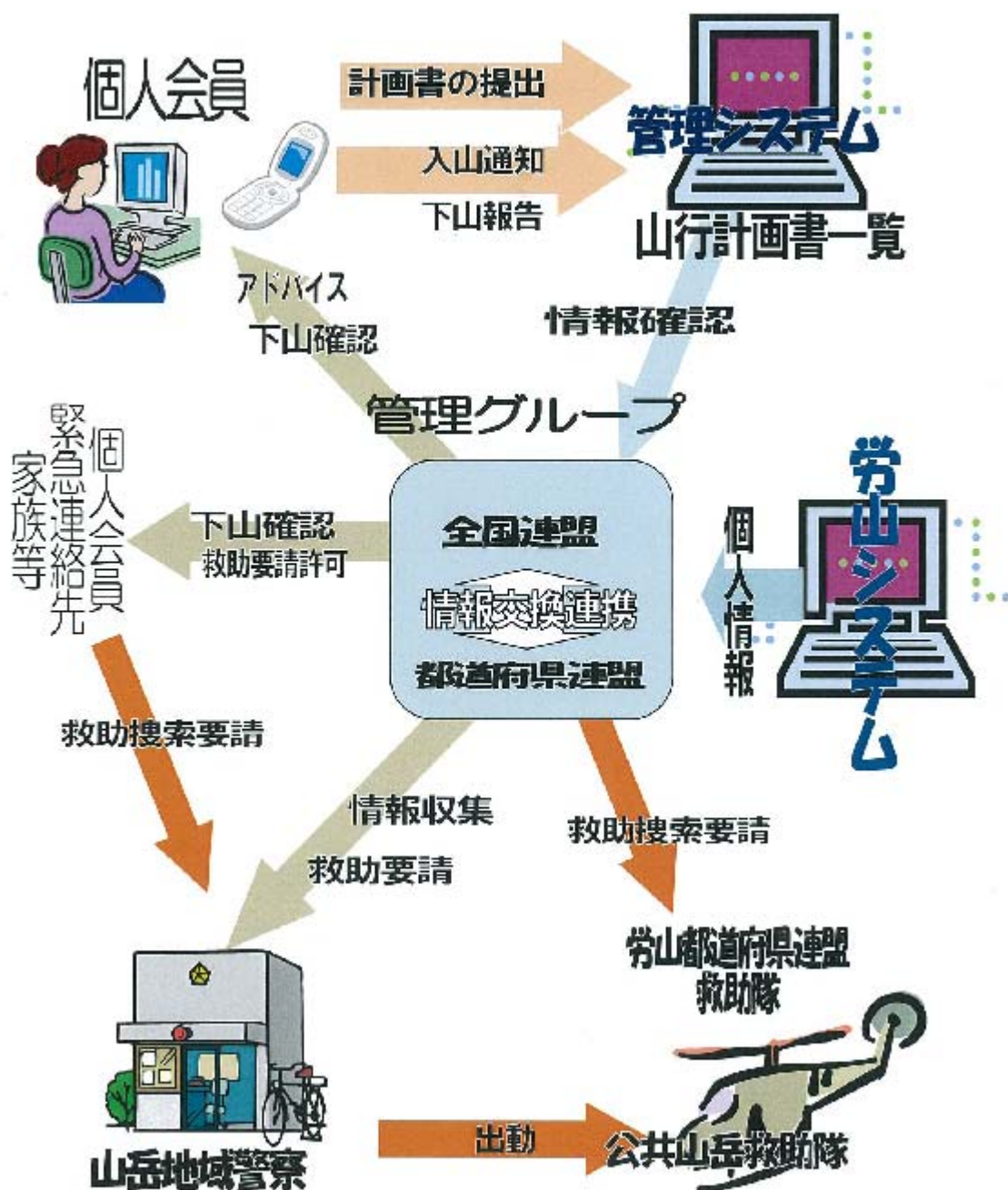
会員拡大の取り組みは、2010年度総会に提案し承認された。

当面の拡大目標は、800名に設定し、出来るだけ早い時期に達成し、次の目標に取り組んで行くことが確認された。

目標800名は、現在の千葉県連盟の総力を結集すれば可能な数字である。
提案の骨子は

- 1、会員減少の影響は・・・財政活動に大きなマイナス影響が出る。
- 2、会員拡大の目的は・・・財政問題だけではない。
- 3、新しい仲間を迎えると同時に、現会員が退会しない取り組み。
- 4、会員拡大の取り組みは「拡大検討部会」を立ち上げて、各会の代表の参加で、各会の現状・意見などが反映しやすい体制にする。

山行管理体制



千葉県連45周年記念行事

ネパール エベレスト街道トレッキング

株式会社風の旅行社・手配 ※このご案内は「日程案とお見積り例」です。
パンフレットではありません。

A ナムチェ・コース



シャンボチェからのパノラマ

エベレストの好展望台！ シャンボチェへ

「ヒマラヤを見てみたい」と思う方なら先ず思い浮かべるのが、やはり世界最高峰エベレスト(サガルマータ)。シャンボチェは短い日程でエベレストを望める絶好の展望台です。エベレスト以外にも、ローツェ、アマダブラム、タムセルク、クスムカンガール、コンデリなど、クーンブ山群の山々をぐるりと見渡せます。ロッジの設備も比較的良く、ナムチェバザール手前の登り道がきついです。全体的にはゆったりした日程で、特別な技術や経験は必要ありません。高所初心者・トレッキング初心者にもお勧めです。

●ご旅行代金の目安

(10-15名) 286,000円 (15-20名) 276,000円
(21名以上) 271,000円

ご旅行代金の他に空港税、燃油付加運賃(8月1日現在 25,090円)、ビザ代金が別途かかります。

※ホテルで一人部屋をご利用になる場合、20,000円ほどの追加料金がかかります。

●出発日 10月15日(土) 帰国 10月24日(月)

※その他の項目は裏面に記載しております。必ず合わせてご覧ください。

マークの見方

<移動>

✦飛行機

✪徒歩

<宿泊>

🏨ホテル

🏠ロッジ

✦飛行機内泊

<食事>

🍳朝食

🍲昼食

🍽️夕食

🍽️機内食

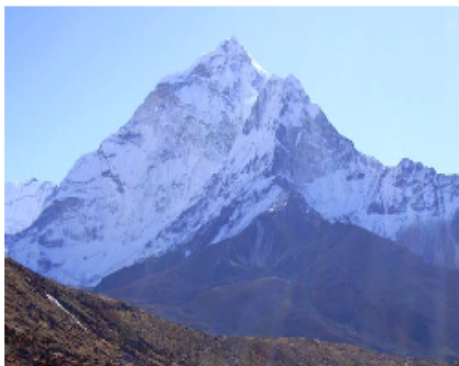
1	東京 ✦ バンコク 10:00~11:00: 成田より空路バンコクへ。 午後: 到着通関後、ホテルへ。	✦ ✪
2	バンコク ✦ カトマンズ 午前: 係員と共に空港へ。空路、ネパールの首都カトマンズへ。 午後: 到着・通関後、係員と共にホテルへ。	✦ ✪ ✪
3	カトマンズ ✦ ルクラ ✪ バクティン 午前: 国内線にてトレッキングの拠点ルクラへ(約 2,840m)。その後、バクティン(約 2,810m)まで歩きます。 [歩行: 約3時間]	✦ ✪ ✪ ✪
4	バクティン ✪ ナムチェ シェルバ族の故郷ナムチェ(約 3,440m)まで歩きます。カンテガ、タムセルクが望めます。 [歩行: 約6時間]	✦ ✪ ✪ ✪
5	ナムチェ ✪ シャンボチェ ✪ ナムチェ シャンボチェ(約 3,720m)まで登ります。アマダブラムが姿を現し、速くエベレストが望めます。 [歩行: 約3時間]	✦ ✪ ✪ ✪
6	ナムチェ ✪ ルクラ ナムチェより来た道をトレッキングの拠点ルクラまで戻ります。 [歩行: 約7時間]	✦ ✪ ✪ ✪
7	ルクラ ✦ カトマンズ 午前: 国内線にてカトマンズへ。ホテル到着後、フリータイム。	✦ ✪
8	カトマンズ 終日: フリータイム兼フライト予備日。	✦ ✪
9	カトマンズ ✦ バンコク 午前: 出発までフリータイム。その後係員と共に車で空港へ。 午後: 空路、バンコクで乗り継いで帰国の途へ。	✦ ✪ ✪ ✪
10	✦ 東京 06:00~08:30: 成田空港到着。通関後解散	✦

※ルクラの飛行場は山間にあるため、カトマンズ〜ルクラ間は乾季でも雨、雪、強風、濃霧などにより欠航することがあります。



※写真はすべてイメージです

B ペリチェ・コース



急峻な山岳が近くに迫る ペリチェへ

ナムチェからエベレスト街道をさらに奥に進み、ペリチェまで歩きます。ペリチェからはクープ山群の名峰アマダブラムと急峻な崖壁を持つタウツェが目の前に望めます。途中、このエリア最大のチベット仏教の僧院があるタンボチェも訪れます。復路はエベレストに初登頂したテンジン・ノルゲイの故郷ターメまで歩きます。トレッカーが少なく、静かな山旅を楽しめるエリアです。

●ご旅行代金の目安
(10-15名) 355,000円 (15-20名) 345,000円
(21名以上) 340,000円
ご旅行代金の他に空港税、燃油付加運賃(8月1日現在 25,090円)、ビザ代金が別途かかります。

<2コース共通>

- 添乗員 ???。現地にて日本語ガイドが同行します。
- パスポート&ビザ
ビザ申請時に有効期間が6ヶ月以上残っているパスポートが必要です。ネパールはビザが必要になります。
- カトマンズのホテルで一人部屋をご利用になる場合、20,000円の追加料金がかかります。
- ご利用ホテルのクラス
(バンコク) 3~4★クラス (カトマンズ) 2~3★クラス
- 高所トレッキングのため、救護者費用・治療費用が1,500万円以上の海外旅行保険へのご加入とご誓約書の提出をお願いします。

< お問い合わせ・お申し込み先 >

- 千葉勤労者山岳連盟 広木 国昭
TEL : 090-8316-2020
e-mail : jdanphiro@zpost.plala.or.jp
または
- 風の旅行社 鈴木 雅子
TEL : 0120-987-553
e-mail : suzuki@kaze-travel.co.jp

1 ~ 4	Aコースの1~4日目と同じ	
5	ナムチェ 高度順応日	☑️📺📶🚶
6	ナムチェ ⇄ タンボチェ チベット仏教の僧院があるタンボチェ(3,860m)まで歩きます。エベレスト、アマダブラム、周辺にカンテガ、タムセルク等クープ地方の山々を見渡せる絶好のポイントです。 [歩行:約6時間]	☑️📺📶🚶
7	タンボチェ ⇄ ペリチェ アマダブラムが正面に見えるペリチェ(4,240m)まで歩きます。 [歩行:約6時間]	☑️📺📶🚶
8	ペリチェ ⇄ タンボチェ タンボチェまで戻ります。 [歩行:約4時間]	☑️📺📶🚶
9	タンボチェ ⇄ ナムチェ ナムチェまで戻ります。 [歩行:約4時間]	☑️📺📶🚶
10	ナムチェ ⇄ ターメ テンジン・ノルゲイの故郷ターメ(約3,800m)まで歩きます。 [歩行:約4時間]	☑️📺📶🚶
11	ターメ ⇄ ナムチェ ナムチェまで戻ります。 [歩行:約3時間]	☑️📺📶🚶
12	ナムチェ ⇄ ルクラ ナムチェより来た道をトレッキングの拠点ルクラまで戻ります。 [歩行:約7時間]	☑️📺📶🚶
13	ルクラ ⇄ カトマンズ 午前:園内にてカトマンズへ。ホテル到着後、フリータイム。	📺📶🚶
14	カトマンズ 終日:フリータイム兼フライト予備日。	📺📶
15	カトマンズ ⇄ バンコク 午前:出発までフリータイム。その後係員と共に車で空港へ。 午後:空路、バンコクで乗り継いで帰国の途へ。	📺📶🚶
16	州東京 08:00~08:30:成田空港到着。通関後解散	📺📶

※ルクラの飛行場は山間にあるため、カトマンズ〜ルクラ間は乾季でも雨、雪、強風、濃霧などにより欠航することがあります。



10月にはネパールへの観光客が一番多い月です。航空便が非常に混雑しますので、お早めにお申込ください。

県連たより

県連盟連絡先

- ◎ 千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX 043-306-1190
Eメール
rousanchiba@grape.plala.or.jp
- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
newstoukou@cwaf.jp
- ◎ 事故一報
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax: 043-271-4704
- ◎ 連盟費振込み
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 皆様の、ご要望に応えられる
「ちばニュース」を目指します。
しかし、編集委員は1人で、マイペースで楽しんでいます。
でも、そろそろ限界ですね。
どなたかの優しい協力を!!!

県連盟よりのお願い

- ・事務局が解体しています。
組織活動の中心は、事務局活動です。
事務局が確立しない事は非常事態です。
 - ・事務局の、ワンパートのお手伝いをお願いします。お茶でも飲みながら事務所の整理を手伝って下さい。
ご連絡をお待ちしています。
- 連絡先 県連盟会長 広木 国昭
danphiro@zpost.plala.or.jp

支援Tシャツのお知らせ!!

全国連盟では、被災地の仲間を励ますためにTシャツを作りました。
このTシャツは、被災地の仲間へ送ります。
同時に、全国の仲間には支援活動として1枚2500円で購入をお願いします。
うち1000円は支援金とします。
Tシャツの岩手山のイラストは、千葉県連盟・かがりび山の会の石井さんの力作です。千葉県連盟では、岩手山のTシャツの購入を勧めています。(鳥海山は品切れ)
千葉の仲間のイラストTシャツを着て支援活動に参加してください。
申し込みは、各会でまとめていただき、千葉県連 広木国昭までお願いします。
Eメール danphiro@zpost.plala.or.jp
携帯Tel 090-8316-2020

編集後記

県連45周年記念トレッキングの募集を開始しました。各会で仲間を誘い合って参加してください。私も参加します。エベレスト街道は、今回で4回目になります。最初は、35周年記念トレッキングを中心になって実行した、Hさん・Nさんと一緒でした。このお二人のおかげで素晴らしい山々・人々に会えました。おかげさまで、楽しいトレッキングを続けています。(danp)

県 連 活 動 予 定 表

8月		9月	
1	月	1	木
2	火	2	金
3	水	3	土 石巻支援活動
4	木	4	日 "
5	金	5	月
6	土	6	火
7	日	7	水
8	月 女性委員会	8	木
9	火 役員会	9	金
10	水	10	土 代表者・理事合同会議
11	木	11	日
12	金	12	月
13	土	13	火 役員会
14	日	14	水
15	月 救助隊例会	15	木 県連理事会
16	火	16	金
17	水	17	土 石巻支援活動
18	木 県連理事会	18	日 "
19	金	19	月 "
20	土	20	火
21	日	21	水
22	月 救助隊例会	22	木
23	火	23	金
24	水	24	土 関東ブロック交流会(群馬県連)
25	木 拡大部会	25	日
26	金	26	月
27	土	27	火
28	日	28	水
29	月	29	木
30	火	30	金
31	水		

ちばニュース 2011年8月号 NO 220 (無断転載禁)

発行 千葉県勤労者山岳連盟

〒 262-0033 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台101号室 TEL/FAX 043-306-1190

発行責任者 吉田 哲治

編集人 広木 国昭

日本勤労者山岳連盟 〒162-0814 東京都新宿区新小川町5-24

TEL 03-3260-6331 FAX 03-3235-4324